

所管事務の調査（報告）

- ・令和3年度 川崎市下水道事業会計決算の概況について
- ・令和3年度 川崎市水道事業会計決算の概況について
- ・令和3年度 川崎市工業用水道事業会計決算の概況について

上 下 水 道 局

I 下水道事業会計

1 令和3年度 下水道事業会計決算概況

(1) 総括事項

下水道は、市民の快適な生活環境の実現と公共用水域の水質保全及び雨水排除等のために欠くことのできない都市の基幹施設であり、令和3年度も引き続き、本市の重要施策の一つとして、事業に取り組んでまいりました。

令和3年度は、「川崎市上下水道ビジョン」、「川崎市上下水道事業中期計画」に基づき、大規模地震発生時においても下水道機能を損なわないための地震対策や令和元年東日本台風を踏まえた浸水への対策など、下水道が抱える課題を解決するための様々な取組を確実に進めてまいりました。

一方、財政面では、下水道経営の健全化を図るため、引き続き事業運営の効率化に努めてきたことなどにより、当年度純利益を計上することができましたが、単年度資金については、一般会計出資金が減少したこと等から資金不足額が生じました。なお、過去の建設投資の影響により、未だ企業債残高は高い水準にあり、依然として厳しい財政状況にあります。

今後も、下水道施設の更新等に伴う建設改良費が必要となりますので、これまでの累積資金の活用等で対応してまいります。

(業務の状況)

令和3年度末における処理面積は1万719ha、処理人口は153万1,670人で、人口普及率は99.5%に達しています。

また、有収水量は1億5,414万5,331 m^3 で、下水道使用料収入は税抜きで218億8,405万4,095円です。

(建設及び改良工事)

令和3年度の建設改良費の決算額は、前年度からの繰越事業費を加えて、190億7,820万9,547円となっております。

また、142億8,000万円を令和4年度に繰り越しました。

主な建設改良工事として、管きょについては、大規模地震発生時にも、市民生活への影響を最小限にするため、災害時において、特に下水道機能の確保が必要とされる重要な管きょの耐震化工事を施行したほか、浸水リスクの高い土橋地区などでの浸水被害軽減に向けた浸水対策工事を施行しました。また、令和元年東日本台風による浸水被害を踏まえた対策工事を施行しました。

ポンプ場については、老朽化の進む大師河原ポンプ場の再構築に向けた建設工事を施行したほか、丸子ポンプ場などで老朽化した設備の更新工事を施行しました。

水処理センターなどについては、入江崎総合スラッジセンターなどで老朽化した設備の更新工事を施行したほか、等々力水処理センターにおいて、高度処理化に向けた建設工事を施行しました。

2 令和3年度 下水道事業会計決算総括表

(1) 予算執行状況

ア 収入（税込額）

(単位 円)

科目	予算額	決算額	増△減	執行率
収益的収入	44,960,857,000	43,775,364,169	△ 1,185,492,831	97.4%
資本的収入	47,586,595,000	32,402,364,654	△ 15,184,230,346	68.1%
合計	92,547,452,000	76,177,728,823	△ 16,369,723,177	82.3%

イ 支出（税込額）

(単位 円)

科目	予算額	決算額	増△減	執行率
収益的支出	41,745,406,000	39,372,396,043	△ 2,373,009,957	94.3%
資本的支出	71,152,932,000	56,715,941,362	△ 14,436,990,638	79.7%
合計	112,898,338,000	96,088,337,405	△ 16,810,000,595	85.1%

(2) 収益的収支・資本的収支

ア 収益的収支（税込額）

(単位 円)

区分	収入	支出	収支差引
収益的収支	43,775,364,169	39,372,396,043	4,402,968,126

収益的収支差額（税抜額） = 当年度純利益（△純損失） 3,302,506,563円

イ 資本的収支（税込額）

(単位 円)

区分	収入	支出	収支差引
資本的収支	32,402,364,654	56,715,941,362	△ 24,313,576,708

資本的収入額が資本的支出額に不足する額 24,313,576,708円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 1,089,489,013円、減債積立金 8,641,463,395円、過年度分及び当年度分損益勘定留保資金 14,582,624,300円で補てんした。

(3) 資金過不足額

ア 令和3年度単年度資金過不足額

(単位 円)

区分	金額	備考
当年度純利益（△純損失） (A)	3,302,506,563	<補てん財源等の内訳> ・当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 1,089,489,013 ・当年度分損益勘定留保資金 16,403,481,603
資本的収支差額 (B)	△ 24,313,576,708	
補てん財源等 (C)	17,552,048,895	減価償却費 23,504,298,319 固定資産除却費 315,162,745 長期前受金戻入 △ 7,415,982,701 その他非現金 3,240 ・退職給付引当金 59,078,279
単年度資金残額（△資金不足額） (A) + (B) + (C)	△ 3,459,021,250	

イ 累積資金過不足額

(単位 円)

区 分	令 和 2 年 度 末 資 金 残 額	令 和 3 年 度 単 年 度 資 金 残 額 (△資金不足額)	令 和 3 年 度 末 資 金 残 額 ※
資金残額	16,248,678,167	△ 3,459,021,250	12,789,656,917
うち退職給付 引当金	1,940,376,686	59,078,279	1,999,454,965

※退職給付引当金を除く資金残額については、令和4年度以降の元金償還金に充てる予定である。

(4) 経営成績 (税抜額)

(単位 円)

科 目	金 額	科 目	金 額
営 業 費 用	35,573,763,027	営 業 収 益	32,920,545,894
営 業 外 費 用	2,692,343,707	営 業 外 収 益	8,009,603,936
特 別 損 失	84,700	特 別 利 益	638,548,167
総 費 用	38,266,191,434	総 収 益	41,568,697,997
当年度純利益	3,302,506,563	当年度純損失	-
前年度繰越 利益剰余金	0	前年度繰越 欠損金	-
その他未処分 利益剰余金変動額	8,641,463,395	-	-
当年度未処分 利益剰余金※	11,943,969,958	当年度未処理 欠損金	-

※当年度未処分利益剰余金のうち、現金預金の裏付けのない使用後の減債積立金分8,641,463,395円は、令和4年度に資本金に組み入れる予定である。

(5) 財政健全化法における資金不足比率の状況

会 計 名	資 金 不 足 比 率	経 営 健 全 化 基 準
下 水 道 事 業 会 計	- (資金不足となっていない)	20%

3 業務の状況

項目 \ 年度	令和3年度	令和2年度	増△減(%)
総人口(人)	1,538,721	1,539,946	(△ 0.1 %) △ 1,225
処理人口(人)	1,531,670	1,532,738	(△ 0.1 %) △ 1,068
人口普及率(%)	99.5	99.5	(—) 0.0 P
処理面積(ha)	10,719	10,717	(0.0 %) 2
排水区域面積(ha)	10,719	10,717	(0.0 %) 2
水洗化対象件数(件)	755,260	743,331	(1.6 %) 11,929
水洗化件数(件)	752,987	741,053	(1.6 %) 11,934
水洗化助成件数(件)	21	11	(90.9 %) 10
年間処理水量(m ³)	203,575,943	206,424,492	(△ 1.4 %) △ 2,848,549
1日平均処理水量(m ³ /日)	557,742	565,546	(△ 1.4 %) △ 7,804
年間有収水量(m ³)	154,145,331	155,690,117	(△ 1.0 %) △ 1,544,786
管きょ布設延長(m)	3,153,671	3,149,284	(0.1 %) 4,387
下水道使用料(円) (税抜額)	21,884,054,095	22,160,443,002	(△ 1.2 %) △ 276,388,907

Ⅱ 水道事業会計

1 令和3年度 水道事業会計決算概況

(1) 総括事項

水道は、市民の快適な生活や産業活動の進展に欠くことのできない都市の基幹施設であることから、安全で良質な水の安定した供給に向けて取り組んでまいりました。

水需要については、近年、家事用等の使用では微増傾向であり、また、大口の使用では減少傾向となっておりますが、令和3年度は家事用等の使用も減少となり、水需要全体としては令和2年度と比べると微減となりました。

事業面では、「川崎市上下水道ビジョン」、「川崎市上下水道事業中期計画」に基づき、大規模地震を踏まえた基幹施設や老朽化した管路の更新、耐震化を進めるとともに、小・中学校等への開設不要型の応急給水拠点の整備等に取り組んでまいりました。

一方、財政面では、事業運営の効率化などにより当年度純利益を計上しましたが、単年度資金については、管路の更新、耐震化が増大したこと等から資金不足額が生じました。

今後も、水道施設や管路の更新、耐震化等に伴う建設改良費が必要となりますので、これまでの累積資金の活用等で対応してまいります。

(業務の状況)

令和3年度末における給水人口は153万8,691人、給水栓数は89万7,317栓、普及率はほぼ100%です。

年間配水量は1億8,323万6,900^m₃、1日最大配水量は令和3年7月10日に記録した53万9,700^m₃です。

また、水道料金収入は税抜きで245億3,599万7,958円です。

(建設及び改良工事)

令和3年度の建設改良費の決算額は、前年度からの繰越事業費を加えて、125億921万7,687円となっております。

また、31億5,530万2,619円を令和4年度に繰り越しました。

主な建設改良工事として、配水施設費については、大規模地震を踏まえた基幹施設や老朽化した管路の更新、耐震化を図るため、黒川高区配水池耐震補強工事等を施行しました。令和3年度決算額は9億5,835万536円となっております。

耐震管路等整備事業費については、老朽化した管路の更新や耐震化を図るため、配水管布設替工事等を施行しました。令和3年度決算額は90億1,767万4,620円となっております。

2 令和3年度 水道事業会計決算総括表

(1) 予算執行状況

ア 収入（税込額）

（単位 円）

科目	予算額	決算額	増△減	執行率
収益の収入	35,270,595,000	34,998,709,428	△ 271,885,572	99.2%
資本の収入	7,899,437,000	6,498,002,244	△ 1,401,434,756	82.3%
合計	43,170,032,000	41,496,711,672	△ 1,673,320,328	96.1%

イ 支出（税込額）

（単位 円）

科目	予算額	決算額	増△減	執行率
収益の支出	33,772,917,000	32,063,828,171	△ 1,709,088,829	94.9%
資本の支出	19,657,708,158	15,995,968,639	△ 3,661,739,519	81.4%
合計	53,430,625,158	48,059,796,810	△ 5,370,828,348	89.9%

(2) 収益の収支・資本の収支

ア 収益の収支（税込額）

（単位 円）

区分	収入	支出	収支差引
収益の収支	34,998,709,428	32,063,828,171	2,934,881,257

収益の収支差額（税抜額） = 当年度純利益（△純損失） 1,842,484,506円

イ 資本の収支（税込額）

（単位 円）

区分	収入	支出	収支差引
資本の収支	6,498,002,244	15,995,968,639	△ 9,497,966,395

資本の収入額が資本の支出額に不足する額 9,497,966,395円は、当年度分消費税及び地方消費税資本の収支調整額1,085,286,716円、減債積立金3,065,773,601円及び過年度分損益勘定留保資金 5,346,906,078円で補てんした。

(3) 資金過不足額

ア 令和3年度単年度資金過不足額

（単位 円）

区分	金額	備考
当年度純利益（△純損失） (A)	1,842,484,506	<補てん財源等の内訳> ・当年度分消費税及び地方消費税資本の収支調整額 1,085,286,716 ・当年度分損益勘定留保資金 6,156,695,109 〔減価償却費 6,415,169,878 固定資産除却費 494,810,303 長期前受金戻入等 △ 753,285,072 ・退職給付引当金 △ 13,032,380
資本的収支差額 (B)	△ 9,497,966,395	
補てん財源等 (C)	7,228,949,445	
単年度資金残額（△資金不足額） (A) + (B) + (C)	△ 426,532,444	

イ 累積資金過不足額

(単位 円)

区 分	令 和 2 年 度 末 資 金 残 額	令 和 3 年 度 単 年 度 資 金 残 額 (△資金不足額)	令 和 3 年 度 末 資 金 残 額 ※
資金残額	20,322,245,889	△ 426,532,444	19,895,713,445
うち退職給付 引当金	4,706,062,510	△ 13,032,380	4,693,030,130

※退職給付引当金を除く資金残額については、令和4年度以降の建設改良費と元金償還金に充てる予定である。

(4) 経営成績 (税抜額)

(単位 円)

科 目	金 額	科 目	金 額
営 業 費 用	29,286,276,543	営 業 収 益	28,750,547,799
営 業 外 費 用	874,446,054	営 業 外 収 益	3,223,643,953
特 別 損 失	4,901,686	特 別 利 益	33,917,037
総 費 用	30,165,624,283	総 収 益	32,008,108,789
当 年 度 純 利 益	1,842,484,506	当 年 度 純 損 失	-
前 年 度 繰 越 利 益 剰 余 金	0	前 年 度 繰 越 欠 損 金	-
そ の 他 未 処 分 利 益 剰 余 金 変 動 額	3,065,773,601	-	-
当 年 度 未 処 分 利 益 剰 余 金 ※	4,908,258,107	当 年 度 未 処 理 欠 損 金	-

※当年度未処分利益剰余金のうち、現金預金の裏付けのない使用後の減債積立金分3,065,773,601円は、令和4年度に資本金に組み入れる予定である。

(5) 財政健全化法における資金不足比率の状況

会 計 名	資 金 不 足 比 率	経 営 健 全 化 基 準
水 道 事 業 会 計	- (資金不足となっていない)	20%

3 業務の状況

年度 項目	令和3年度	令和2年度	増△減(%)
給水人口(人)	1,538,691	1,539,916	($\Delta 0.1$ %) $\Delta 1,225$
給水柱数(柱)	897,317	889,128	(0.9 %) 8,189
普及率(%)	99.99	99.99	(0.00 %) 0.00 P
年間配水量(m ³)	183,236,900	186,422,200	($\Delta 1.7$ %) $\Delta 3,185,300$
1日最大配水量 (m ³ /日)	(7/10) 539,700	(12/31) 554,300	($\Delta 2.6$ %) $\Delta 14,600$
1日平均配水量 (m ³ /日)	502,019	510,746	($\Delta 1.7$ %) $\Delta 8,727$
年間有収水量(m ³)	171,656,064	172,982,051	($\Delta 0.8$ %) $\Delta 1,325,987$
1日平均有収水量 (m ³ /日)	470,291	473,923	($\Delta 0.8$ %) $\Delta 3,632$
有収率(%)	93.7	92.8	($-$) 0.9 P
配水管の延長(m)	2,418,783	2,410,659	(0.3 %) 8,124
水道料金収入(円) (税抜額)	24,535,997,958	24,744,155,642	($\Delta 0.8$ %) $\Delta 208,157,684$

Ⅲ 工業用水道事業会計

1 令和3年度 工業用水道事業会計決算概況

(1) 総括事項

本市の工業用水道は、わが国初の公営工業用水道事業として昭和12年に給水を開始して以来、重化学工業を中心とした本市の産業経済の基幹施設としてその発展に寄与するとともに、活力と魅力あふれる力強い都市づくりを支える産業の振興に向けて、工業用水の安定供給に取り組んでまいりました。

水需要については、産業構造の変化や省資源対策による回収水の再利用等の影響を受け減少傾向にありましたが、近年はほぼ横ばいで推移しています。

事業面では、「川崎市上下水道ビジョン」、「川崎市上下水道事業中期計画」に基づき、老朽化した管路の更新等に取り組んでまいりました。

一方、財政面では、事業運営の効率化などにより当年度純利益を計上し、単年度資金についても資金残額が生じました。

今後も、工業用水道施設の整備等に伴う建設改良費が必要となりますので、これまでの累積資金の活用等で対応してまいります。

(業務の状況)

令和3年度末における契約会社・工場数は58社78工場、1日当たりの契約水量は51万5,470m³、年間契約水量は1億8,814万6,550m³、年間使用水量は1億4,433万8,787m³です。

また、工業用水道料金収入は税抜きで69億776万9,664円です。

(建設及び改良工事)

令和3年度の建設改良費の決算額は、前年度からの繰越事業費を加えて、5億4,470万8,556円となっております。

また、5億2,043万2,250円を令和4年度に繰り越しました。

主な建設改良工事として、配水施設費については、将来の工業用水の安定供給に向けて、工水2号送水管1300mm人孔T字管補強工事等を施行しました。令和3年度決算額は8,056万723円となっております。

その他の建設改良費については、長沢浄水場 第1沈でん池汚泥掻寄機及び排泥弁改良工事等を施行しました。

2 令和3年度 工業用水道事業会計決算総括表

(1) 予算執行状況

ア 収入（税込額）

（単位 円）

科目	予算額	決算額	増△減	執行率
収益的収入	7,907,415,000	7,773,972,068	△ 133,442,932	98.3%
資本的収入	276,763,000	150,778,199	△ 125,984,801	54.5%
合計	8,184,178,000	7,924,750,267	△ 259,427,733	96.8%

イ 支出（税込額）

（単位 円）

科目	予算額	決算額	増△減	執行率
収益的支出	7,609,102,000	7,038,463,849	△ 570,638,151	92.5%
資本的支出	2,283,049,556	1,220,514,318	△ 1,062,535,238	53.5%
合計	9,892,151,556	8,258,978,167	△ 1,633,173,389	83.5%

(2) 収益的収支・資本的収支

ア 収益的収支（税込額）

（単位 円）

区分	収入	支出	収支差引
収益的収支	7,773,972,068	7,038,463,849	735,508,219

収益的収支差額（税抜額） = 当年度純利益（△純損失） 686,438,776円

イ 資本的収支（税込額）

（単位 円）

区分	収入	支出	収支差引
資本的収支	150,778,199	1,220,514,318	△ 1,069,736,119

資本的収入額が資本的支出額に不足する額 1,069,736,119円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 46,421,855円、減債積立金 675,805,762円及び過年度分損益勘定留保資金 347,508,502円で補てんした。

(3) 資金過不足額

ア 令和3年度単年度資金過不足額

（単位 円）

区分	金額	備考
当年度純利益（△純損失） (A)	686,438,776	<補てん財源等の内訳> ・当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 46,421,855 ・当年度分損益勘定留保資金 1,053,765,965 〔減価償却費 1,144,939,266 固定資産除却費 23,797,206 長期前受金戻入等 △ 114,970,507〕 ・退職給付引当金 △ 12,002,390
資本的収支差額 (B)	△ 1,069,736,119	
補てん財源等 (C)	1,088,185,430	
単年度資金残額（△資金不足額） (A) + (B) + (C)	704,888,087	

イ 累積資金過不足額

(単位 円)

区 分	令 和 2 年 度 末 資 金 残 額	令 和 3 年 度 単 年 度 資 金 残 額 (△資金不足額)	令 和 3 年 度 末 資 金 残 額 ※
資金残額	8,999,092,567	704,888,087	9,703,980,654
うち退職給付 引当金	580,583,770	△ 12,002,390	568,581,380

※退職給付引当金を除く資金残額については、令和4年度以降の建設改良費と元金償還金に充てる予定である。

(4) 経営成績（税抜額）

(単位 円)

科 目	金 額	科 目	金 額
営 業 費 用	6,295,585,087	営 業 収 益	6,917,764,333
営 業 外 費 用	99,181,661	営 業 外 収 益	163,441,190
特 別 損 失	0	特 別 利 益	1
総 費 用	6,394,766,748	総 収 益	7,081,205,524
当 年 度 純 利 益	686,438,776	当 年 度 純 損 失	-
前 年 度 繰 越 利 益 剰 余 金	0	前 年 度 繰 越 欠 損 金	-
そ の 他 未 処 分 利 益 剰 余 金 変 動 額	675,805,762	-	-
当 年 度 未 処 分 利 益 剰 余 金 ※	1,362,244,538	当 年 度 未 処 理 欠 損 金	-

※当年度未処分利益剰余金のうち、現金預金の裏付けのない使用後の減債積立金分675,805,762円は、令和4年度に資本金に組み入れる予定である。

(5) 財政健全化法における資金不足比率の状況

会 計 名	資 金 不 足 比 率	経 営 健 全 化 基 準
工業用水道事業会計	— (資金不足となっていない)	20%

3 業務の状況

年度 項目	令和3年度	令和2年度	増△減(%)
年度末契約会社・工場数	58社78工場	58社78工場	(0.0 %) —
年間契約水量(m ³)	188,146,550	188,146,550	(0.0 %) 0
年度末1日当たり契約水量 (m ³ /日)	515,470	515,470	(0.0 %) 0
年間使用水量(m ³)	144,338,787	140,743,188	(2.6 %) 3,595,599
年間配水量(m ³)	145,536,400	141,334,600	(3.0 %) 4,201,800
1日最大配水量 (m ³ /日)	(8/31) 434,900	(9/10) 428,500	(1.5 %) 6,400
調定水量(m ³)	189,932,031	190,850,071	(△ 0.5 %) △ 918,040
年間超過水量(m ³)	1,785,481	2,703,521	(△ 34.0 %) △ 918,040
配水管の延長(m)	43,412	43,417	(△ 0.0 %) △ 5
水道料金収入(円) (税抜額)	6,907,769,664	6,952,746,068	(△ 0.6 %) △ 44,976,404

※調定水量(m³)は、年間契約水量(m³)と年間超過水量(m³)の合計である。